

平成 30 年度事業報告について

事業実施総括

公益社団法人青森県観光連盟（以下「観光連盟」という。）では、北海道新幹線開業や訪日外国人旅行（以下「インバウンド」という。）、FIT（個人手配の海外旅行）の増加など、本県観光の環境変化に的確に対応していくため、平成 29 年 8 月に、観光連盟としての果たすべき役割や課題解決に向けた「観光連盟イノベーションプラン」を策定し、ミッションに基づく様々な取組を実施してきた。

特に、平成 30 年度においては、4 月に交通事業者、旅行 AGT や地元銀行から派遣された職員とともに、観光連盟内に観光開発チームを創設、あわせて旅行業第 2 種登録を行い、観光連盟自らが旅行商品の創出、販売を行ったほか、平成 31 年 3 月には、観光地域づくりの舵取り役としてマーケティングとマネジメントに取り組む地域連携 DMO として県内初の本登録となり、地域の観光関係団体や近隣道県等との連携のもと、本県観光産業の振興に資する事業を展開した。

また、平成 30 年 4 月に「あおもりグローバルラウンジ」を開設し、ICT や AI を活用したインバウンド向けのリアルタイムな情報発信や、各自治体、観光事業者等と連携しながら、インバウンドの拡大に向けた観光資源等の磨き上げ、宿泊施設等の魅力向上による観光産業の体質強化を図ったほか、県と連携しながら、教育旅行やコンベンションの誘致や、国内外からの幅広い誘客を目指した効果的なプロモーション等を実施した。

また、青森県観光物産館管理運営事業においては、観光連盟が運営する主催イベントの見直し、再構築を行い、昨年 12 月に冬季中核イベントによる域内交流・経済の活性化を目指した「CHRISTMAS MARKET in アスパム」の開催など新機軸の展開を行ったほか、アスパム自体の魅力向上策として、4 月から展望台や飲食店の夜間営業の開始や、去る 3 月にオープンしたパノラマ館の全面リニューアルなど、新たな顧客の掘り起こしを行った。

収益事業では、貸会議室やイベントスペース、月極め駐車場の増収に向けた営業活動等を行ったほか、新規会員の勧誘や、一層の経費削減により経営の効率化や収益拡大策を実施した。

〔公益目的事業〕

1 観光振興事業

(1) 開発推進事業

① 観光開発推進事業（自主事業・国補助事業）

ア 県内観光コンテンツ発掘調査

県内観光資源の発掘及び磨き上げ作業を県・市町村等と連携して取り組み観光コンテンツの充実を図るための調査を実施した。

- ◆調査箇所 青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、むつ市、つがる市、平川市、西目屋村、田舎館村、鶴田町、中泊町、風間浦村ほか

イ 旅行商品企画の創出

観光資源の発掘・磨き上げに合わせ、本県情報に精通したアドバイザー等を通じ、本県の特徴を整理・分析しながら、他道県と差別化された旅行商品企画の創出に向けた取り組みを行った。

- ◆創出件数 39件

② 滞在促進型宿泊施設魅力向上対策事業（国補助事業）

ア 宿泊施設2施設を選定し、宿泊施設魅力向上のため宿泊アドバイザーによるコンサルティング及び指導を行った。

- ◆コンサルティング回数 6回

イ 宿泊施設の魅力向上に係るコンサルティングによる成果発表会を開催し、県内関係事業者への情報共有を実施。

- ◆時期 平成31年3月20日(水)
- ◆場所 青森市（青森県観光物産館アスパム）

③ 観光資源の魅力向上による周遊促進モデル創出事業

（むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援事業）

県内観光資源の魅力向上と本県誘客・周遊促進を図るため、地域イベントと連携したモデル事例を創出した。

- ◆時期：平成31年1月17日（木）～2月28日（木）
- ◆場所：青森市中心部
- ◆内容：ねぶたの技法を活用し雪をテーマとした作品を「灯りの彫刻」と題し、青森市中心エリアに展示

	作品名	制作者（敬称）	展示場所
1	ゆきのこゑ	野村 昂史	青森県観光物産館アスパム
2	氷の樹	竹浪 比呂央	ホテル JAL シティ
3	冬華	津川 創	成田本店
4	白いストーブ	田中 悠志	電器屋 IKO
5	吹雪鱈	手塚 茂樹	青森市役所駅前庁舎 1階ロビー



④ 地域食材活用メニュー創出事業

観光客の滞在を促進するため、著名シェフ等との連携による地域食材を活かしたメニューを開発し、モデル店舗での導入による観光客の利用促進を図った。

- ◆時期：平成 31 年 1 月 18 日（金）～3 月 31 日（日）
- ◆場所：青森県観光物産館 10 階「西むら」
- ◆内容：日本料理「賛否両論」笠原将弘氏と連携し、青森県産食材を活用したメニュー「青森シャモロック三味丼」を創出



⑤ 教育旅行誘致事業

本県への教育旅行の誘致を促進するため、教育旅行関係団体・教育旅行エージェント等との連携を図りながら、以下の各種事業を実施した。

ア 教育旅行誘致促進連絡会議の開催

教育旅行に係る取組について情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、関係者による連絡会議を開催した。

（ア） 第 1 回会議

- ◆期 日 平成 30 年 5 月 22 日（火）
- ◆場 所 青森市（青森県観光物産館アスパム）
- ◆議 案 ①平成 30 年度教育旅行誘致事業計画等
②青森県アクティブラーニング推進事業

(イ) 第2回会議

- ◆期 日 平成30年11月30日(金)
- ◆場 所 青森市(青森県観光物産館アスパム)
- ◆議 案 ①平成30年度教育旅行誘致事業上半期活動状況
②平成30年度教育旅行誘致事業下半期活動予定
③青森県の事業進捗状況について
④教育旅行誘致促進における課題整理
⑤来年度誘致活動について意見交換

(ウ) 第3回会議

- ◆期 日 平成31年3月6日(水)
- ◆場 所 青森市(青森県観光物産館アスパム)
- ◆議 案 ①平成30年度活動状況・課題整理
②平成31年度教育旅行誘致事業計画(案)
③平成30年度アクティブラーニング推進事業

イ 教育旅行促進強化事業(県委託事業)

(ア) 首都圏対策

- ㊦首都圏教育旅行エージェントキャラバンの開催
 - ◆実施時期 平成30年11月19日(月)～11月21日(水)
 - ◆訪問先 東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の旅行会社33社
学校1校
 - ◆参加者 教育旅行誘致促進連絡会議構成員等11名
- ㊧教育関係団体等の発表会等への参加
 - ◆全国修学旅行研究大会/主催:(公財)全国修学旅行研究大会
 - ◆東北教育旅行セミナー(東京会場)/主催:東北観光推進機構
 - ◆青森地区教育旅行商談会/主催:東北観光推進機構
 - ◆第14回教育旅行シンポジウム/主催:(公財)日本修学旅行協会

(イ) 北海道対策

- ㊦教育旅行現地視察会・商談会
 - ◆期 間 平成30年8月8日(水)～10日(金)
 - ◆視 察 先 青森市、五所川原市、弘前市
 - ◆参加者 旭川市立中学校教諭5名
教育旅行誘致促進連絡会議構成員等13名
- ㊧道央地区教育旅行エージェントキャラバン及び学校訪問
 - ◆期 間 平成30年8月28日(火)～8月31日(金)
 - ◆訪問先 札幌市・苫小牧市・旭川市の旅行エージェント15社
中学校47校、札幌市・旭川市教育委員会
 - ◆参加者 教育旅行誘致促進連絡会議構成員等16名
- ㊦教育関係団体等の発表会等への参加
 - ◆東北教育旅行セミナー(函館会場)/主催:東北観光推進機構
 - ◆東北教育旅行セミナー(苫小牧会場)/主催:東北観光推進機構

- ◆東北教育旅行セミナー(札幌会場)/主催：東北観光推進機構
- ◆東北教育旅行セミナー(室蘭会場)/主催：東北観光推進機構

(ウ) 教育旅行誘致資料等の制作

- ㊦あおり教育旅行ガイドブックの作成・配布
 - ◆部 数 8,000部
- ①青森県教育旅行ホームページの更新

(エ) 教育旅行受入状況調査の実施

- ◆内 容 平成30年分県内宿泊施設に対する調査
- ◆対 象 県内ホテル、旅館等
- ◆期 間 平成31年1月～3月調査実施

⑥ コンベンション誘致事業

本県観光産業の振興に効果が高く、本県観光のイメージアップにも繋がるコンベンション誘致のため、本県開催の動機付けとなるコンベンション開催費助成事業を実施するとともに、県内外の関係団体、企業等への誘致活動を展開した。

ア コンベンション誘致促進連絡会議の開催

コンベンション誘致に係る取組について情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、関係者による連絡会議を開催した。

(ア) 第1回会議

- ◆時 期 平成30年5月22日
- ◆場 所 青森市(青森県観光物産館アスパム)
- ◆議 案 ①平成29年度事業実績について
②平成30年度事業計画について

(イ) 第2回会議

- ◆時 期 平成30年11月30日
- ◆場 所 青森市(青森県観光物産館アスパム)
- ◆議 案 ①大規模MICE開催費助成金の執行状況等について
②誘致活動状況等について
③今後の活動について

イ あおりMICE誘致活動事業(県補助事業)

(ア) コンベンション誘致に向けた大学・団体等訪問

県内大学や青森県での開催可能性があるコンベンション主催団体及び旅行エージェント等を訪問し、本県支援制度等について説明し、

学会等の誘致促進や本県でのコンベンション開催について依頼を行った。

- ◆時期 平成30年6月～平成31年3月
- ◆訪問地域 青森県内、東京都内
- ◆訪問件数 県内大学13件・首都圏旅行会社等10件

(イ) コンベンション誘致のための支援策(ユニークベニュー・特典等)
コンベンション誘致を促進するため、本県でのコンベンション開催にあわせ特別な企画対応を行う会場、いわゆる「ユニークベニュー」を関係機関と共に創出した。また、青森県でのコンベンション開催を促進するための支援策を造成・整理し、情報発信を行った。

- ◆内容：ユニークベニュー6件造成、特典等11件
- ◆情報発信：アプティネット掲載、観光庁ホームページ掲載、日本コンベンション都市ガイド掲載、主催団体等への説明・配布

(ウ) イベント出展等

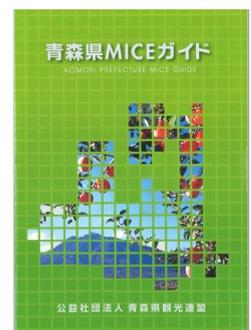
国際MICEエキスポ(IME2019)に県内各観光コンベンション協会と共同で出展し、本県コンベンション関係支援制度をPRするとともに、本県での開催可能性がある団体等と商談を行った。

- ◆期間：平成31年2月28日(木)
- ◆場所：東京国際フォーラム
- ◆商談：10団体

(エ) ガイドブックの製作

本県でのコンベンション開催を促進するため、コンベンション主催者向けのガイドブックを製作した。

- ◆作成部数：500部
- ◆発行時期：平成31年2月
- ◆配布先：コンベンション主催者、旅行エージェント



ウ 大規模MICE開催費助成事業(県補助事業)

本県でのコンベンションの開催を促進するため、県外からの延宿泊者数100名以上のコンベンション主催者に対し、開催経費の一部を助成した。

- ◆件数：24件
- ◆金額：12,100千円
- ◆県外延べ宿泊者数：11,324人

(2) 情報発信事業

① 観光キャンペーン推進事業

JR東日本や(公社)日本観光振興協会、青森県等とタイアップし、首都圏等における各種観光イベントや観光物産展等に参画するとともに、マスコットキャラクター「いくべえ」を活用しながら観光PR等を実施した。

また、観光ガイドブック等の作成やリゾート列車の運行に係る協議会への参画等を通じて、本県の観光資源の魅力を全国にPRし、本県への一層の誘客促進を図った。

ア あおもり紀行キャンペーンスタッフの任命

県内外の各種観光キャンペーンイベント等において本県観光のPRを行う「あおもり紀行キャンペーンスタッフ」を任命した。

◆人数 3名

◆任期 平成30年4月1日～平成31年3月31日

イ 観光イベントガイドブックの作成

自然や食、温泉、祭りを主要テーマに、ホットな話題やイベント、観光施設等の情報を掲載した本県旅行の総合案内として『「あおもり紀行」観光イベントガイドブック』を作成し、関係箇所への配布・PRを行った。

◆作成部数 夏・秋号 15万部

冬・春号 15万部

◆発行時期 夏・秋号 平成30年5月

冬・春号 平成30年10月

◆配布場所 県内外の交通機関・旅行エージェント・観光事業者等



ウ 観光イベント等への参画

本県への誘客促進を図るため、県外で実施される観光展などの各種イベントに参加しPRを行った。

(ア) 上野駅「三陸産直市」

◆期間：平成30年5月24日(木)

◆場所：JR上野駅

(イ) 「ハイウェイフェスタとうほく2018」

◆期間：平成30年9月22日(土)～23(日)

◆場所：仙台市勾当台公園

ほか、14箇所に参画。



エ 観光セミナーの開催

首都圏からの誘客を強かに促進するため、県と共同で旅行エージェント等を対象とした観光セミナーを開催し、本県観光PRや商談会により、本県向け旅行商品の造成促進を図った。

◆時 期 平成30年6月4日（月）

◆開催場所 ホテルメトロポリタン

オ 商品造成対策

滞在型・周遊型旅行商品の造成を一層促進するため、市町村や関係機関と連携を図り、旅行エージェント等に対し本県の新しい観光素材や観光スポット、自然、食、温泉等の魅力を積極的に情報提供した。

◆時 期 平成30年6月、10月、平成31年2月

◆訪 問 先 首都圏旅行会社

◆内 容 青森県内の観光情報、新規情報の提案等

カ リゾート列車等の運行にかかる協議会への参画

各協議会の会議・行事に参画し、沿線の活性化を図るための検討・取組を行った。

（ア）五能線沿線連絡協議会

◆総会出席 平成30年4月10日

◆担当課長会議出席 平成30年7月5日、10月11日
平成31年2月22日

（イ）陸奥湾沿線誘客宣伝協議会

◆総会出席 平成30年4月24日

◆津軽線60周年記念号出発式 平成30年10月21日

◆担当者会議 平成31年3月19日

キ 航空路線活用対策

県内空港発着の航空路線が広がる中で、航空会社や青森空港振興会議等と連携を図りながら、チャーター便を利用して来県する観光客に対して歓迎イベント等を実施した。

② 青森県・函館誘客促進プロモーション事業（県委託事業）

北海道新幹線開業及び青森県・函館DC及びアフターDCの効果を継続し、青函周遊観光を定着させるため、JR東日本や道南地域自治体、県内観光関係団体等と連携したプロモーション活動を実施し、更なる認知度向上と誘客促進を図った。

ア 青函周遊商品販売促進キャラバン等の実施

青森県と北海道道南地域を巡る青函周遊旅行商品の販売による誘客を促進するため、観光関係団体や観光事業者等と連携して観光キャラバンを派遣し、PR活動を実施した。

(ア) 平成30年5月31日～6月1日、6月4日～5日、6月11日

◆場 所 JR武蔵浦和駅、川口駅、大宮駅、北千住駅、松戸駅、船橋駅、浦和駅

(イ) 平成30年12月16日～12月17日

◆場 所 JR浦和駅・赤羽駅・錦糸町駅

イ プロモーションイベントの実施・参画

首都圏等において、ミニステージ・観光PRコーナーの設置や、観光パンフレットの配布等によるPRを実施した。

(ア) 青森県・函館観光キャンペーンin大宮駅

◆時 期 平成30年6月2日～3日

◆場 所 JR大宮駅西口改札外イベントスペース

ほか、3箇所に参画。



ウ 博多どんたく港まつりにおけるPR

九州圏からの誘客を促進するため、博多どんたく港まつりステージ等に参画し、観光資源及び周遊観光の魅力をPRした。

◆時 期 平成30年5月2日(水)～3日(木祝)

◆場 所 福岡県福岡市

◆内 容 観光PR・郷土芸能披露 等

③ 観光情報ネットワークシステム運営事業(県委託事業)

本県を訪れる観光客等が、観光情報をインターネットにより入手できるよう、県・市町村等と連携し、青森県観光情報サイト「アプティネット」の運営・管理を行った。

④ キーインフルエンサー獲得事業(県委託事業)

生活者・消費者の行動に影響を与えるインフルエンサーによる本県観光情報等の発信活動を強化するため、発信力、到達力、信頼獲得力を備えたキーインフルエンサーの獲得を図った。

◆期 間 平成30年4月～平成31年3月

◆内 容 ・本県と関連のある著名人の発掘、リストアップ

- ・様々なコネクションを利用した働きかけによるキーインフルエンサーの獲得
- ・キーインフルエンサー来県時の対応

(3) インバウンド対策事業

① あおもりグローバルラウンジ運営事業

来県された外国人観光客に対し、くつろいでいただきながら、多言語による観光案内・情報発信等サービスを行うことにより、周遊観光を促進するため「あおもりグローバルラウンジ」を開設した。

- ◆開設時期 平成30年4月23日
- ◆場所 青森県観光物産館アスパム2F 市町村ホール内
- ◆内容
 - ア 多言語（日本語・英語・中国語・韓国語）による、県内全般の観光案内
（平成30年4月～3月 利用人数8,934名、うち海外1,561人）
 - イ 人工知能を活用したチャットボットによる多言語観光案内
（平成30年11月～3月 アクセス件数12,505件、うち海外3,500件）
 - ウ SNSを活用した多言語による情報発信
（インスタグラム投稿数268件 フォロワー数3,478人）
 - エ ラウンジにおける飲料提供
 - オ 多言語による観光PRパネル展示
 - カ 県内周遊旅行商品の販売



② 多言語案内機能端末を活用した体験メニュー・観光案内利用実証事業（国補助事業）

外国人観光客の誘客促進及び効率的かつ円滑な周遊促進を図るため、既存の体験メニュー対応や観光ガイド・観光案内業務について、利便性の高い多言語案内アプリや端末等の活用により、インバウンド利用促進に繋がる可能性について実証実験を行った。

- ◆導入機器 対面ホンヤク、骨伝導型翻訳端末



③ 国際観光推進連絡会議の開催

インバウンド誘致など国際観光の推進に係る取組について、情報共有を図るとともに、課題整理・解決に向けた検討を行うため、関係者による連絡会議を開催した。

(1) 第1回会議

◆時期 【第1回】平成30年5月22日(火)

◆議案 ①今年度の取組について
②今後のインバウンド対策に係わる取組について意見交換

◆場所 青森市(青森県観光物産館アスパム)

(2) 第2回会議

◆時期 【第2回】平成31年3月6日(水)

◆議案 ①今年度・次年度の取組みについて
②インバウンド対応に係る取組みについての課題整理・方向性案

◆場所 青森市(青森県観光物産館アスパム)

④ 韓国誘客対策強化事業(県委託事業)

青森・ソウル線を利用する韓国からの観光客の誘客促進を図るため、大韓航空、韓国旅行エージェント等と連携して誘客宣伝事業等を実施した。

ア 広告支援金の交付

韓国からの観光客の誘客拡大を目的として、韓国旅行エージェントに対し、青森旅行商品の販売促進に係る経費の一部を助成した。

◆支援商品：韓国発青森新規旅行商品(青森・ソウル線往復利用)、韓国発青森県内のトレッキング・ゴルフ商品、冬季増便対策旅行商品、青森県向け商品販促に寄与するメディア活用商品等

◆支援件数：8件

◆支援先：韓国旅行エージェント 延べ27社

イ 韓国エージェント等ファムツアー

韓国からの観光客の誘致拡大を図るため、現地旅行エージェント等を招聘した。

(ア) 韓国ゴルフファムツアー

韓国人観光客向けゴルフ商品の造成・販売促進を図るため、関係者を招聘してファムツアーを実施した。

◆実施時期：平成30年4月20日(金)～22日(日)

◆訪問地域：青森市、大鰐町、平川市、弘前市、黒石市

◆招聘者：旅行エージェント(ゴルフ関係)4名



(イ) 韓国ランド社ファミツアー

韓国人観光客向け青森旅行商品の造成・販売促進を図るため、ランド社を招聘してファミツアーを実施した。

- ◆実施時期：平成30年12月22日(土)～25日(火)
- ◆訪問地域：青森市、十和田市、八戸市、黒石市、弘前市、鱒ヶ沢町、五所川原市
- ◆招聘者：旅行エージェント(ランド社)4名



ウ MICE 誘致

(ア) MICE ファミツアー

韓国民間企業・団体等の MICE 誘致を図るため、関係者を招聘してファミツアーを実施した。

- ◆実施時期：平成30年6月3日(日)～6日(水)
- ◆訪問地域：青森市、弘前市、鱒ヶ沢町、田舎館村、十和田市、三沢市、八戸市、おいらせ町
- ◆招聘者：旅行エージェント及び MICE 実施検討企業6名



(イ) MICE 商談会参加

ソウル市で開催されたインセンティブ旅行関係企業を対象とした商談会「ソウルインセンティブマート」に参加し、青森県内の宿泊・観光施設等の情報提供、具体的な観光ルートの提案などを行った。

- ◆時期：平成30年8月28日(火)
- ◆会場：ザ・プラザホテル(ソウル市)
- ◆商談数：インセンティブツアー関連企業12件



エ その他、韓国からの誘致促進に効果的な業務

(ア) 韓国旅行エージェント等訪問

韓国旅行エージェントや韓国航空会社等を訪問し、本県の観光コンテンツのPRや青森旅行商品の造成・販売促進に向けた情報交換等を行った。

- ◆時期：平成30年7月9日(月)、8月27日(月)、11月23日(金)
- ◆訪問数：延べ11社

(イ) 第5回日韓フォトコンテスト後援

在大韓民国日本国大使館公報文化院主催の第5回日韓フォトコンテストに後援として参加し、賞品等



を提供した。

◆実施期間：平成30年8月8日（水）～12月20日（木）

(ウ) ソウルメトロ2号線・ソウル事務所HPを活用したプロモーションの実施

韓国における本県の認知度向上を図るため、韓国ソウルメトロ2号線及びソウル事務所ホームページを活用した青森県PRを行った。

◆内容：青森県の「春」をテーマとし、ソウルメトロ2号線車内フレーム型広告とソウル事務所HPのポップアップ型広告



⑤ 北東北三県・北海道ソウル事務所事業（県委託事業）

韓国からの観光客の誘致を推進するため開設した「北東北三県・北海道ソウル事務所」の運営に参画した。

ア 北東北三県・北海道ソウル事務所の概要

- ◆設置場所 大韓民国ソウル特別市中区南大門路 韓進ビル本館7階
- ◆運営主体 北東北三県・北海道ソウル事務所運営協議会
- ◆構成員 北海道、青森県、岩手県、秋田県、（一社）北海道貿易物産振興会、（公社）青森県観光連盟、（公財）岩手県観光協会、（一社）秋田県観光連盟

イ 事業内容

(ア) ホームページ活用事業

4道県及びソウル事務所の認知度向上を図るため、事務所ウェブサイト等を通じて随時観光情報を更新するなどし、魅力的な情報発信とアクセス件数の拡大に努めた。

(イ) SNSによる情報発信機能強化事業

フェイスブック、インスタグラム等といったSNSを活用した情報発信が主流となっていることから、4道県の魅力ある観光資源の取材を行い、SNSへの投稿回数を増やすことで認知度向上や旅行促進を図った。

㉞1回目

◆撮影時期：平成30年5月20日（日）～23日（水）

◆撮影地域：青森市、横浜町、風間浦村、大間町、佐井村、むつ市、東通村、七戸町、野辺地町、平内町

◆招請者：現地ブロガー兼カメラマン1名、ソウル事務所1名



①2 回目

- ◆撮影時期：平成 31 年 2 月 9 日（土）～12 日（火）
- ◆撮影地域：青森市、田舎館村、弘前市、南部町、
十和田市、三戸町、五戸町
- ◆招 請 者：現地ブロッガー兼カメラマン 1 名、
ソウル事務所 1 名



(ウ) 旅行商品造成支援事業

4 道県を目的地とした旅行商品の造成促進を目的に、
観光商談会をソウル市内で開催した。

- ◆期 間：平成 30 年 7 月 10 日（火）
- ◆場 所：ソウル市 ロッテホテル
- ◆参加者：韓国旅行エージェント等 81 社 134 名
県内自治体・事業者 8 団体 13 名



(エ) イベント出展等 PR

韓国国内で行なわれる旅行博覧会やイベント等へ出展し、観光業界関
係者や一般消費者に対して PR を行った。

㉞ ハナツアー旅行博覧会

- ◆期 間：平成 30 年 6 月 7 日（水）～10 日（日）
- ◆場 所：高陽市「KINTEX」

㉟ 韓国国際観光展 (KOTFA)

- ◆期 間：平成 30 年 6 月 14 日（木）～17 日（日）
- ◆場 所：ソウル市「COEX」

㊱ 釜山国際観光展

- ◆期 間：平成 30 年 9 月 7 日（金）～10 日（月）
- ◆場 所：釜山市「BEXCO」

(オ) 観光パンフレット作成

観光モデルコースを紹介する観光コースブックを韓国
内で作成した。

- ◆内容：県の基本情報、県内を回遊するコースの紹介等
- ◆規格：A5、30 ページ



⑥ 韓国現地商談会等事業（県委託事業）

韓国との経済交流を促進するため、北東北三県・北海道の共同事業とし
て、韓国における商談会や韓国バイヤーの招聘等を実施し、バイヤー等に
県産品等を PR することにより、県産品等の認知度向上及び販路開拓を図っ
た。

ア 商談会実施

ソウル市において、北東北三県・北海道の韓国プロモーション事業として物産商談会を開催し、韓国バイヤーに対して商談、県産品のPR等を行った。

◆実施時期：平成30年9月14日（金）

◆場 所：ザ・プラザホテル

◆出展業者：県内2事業者・団体

イ バイヤー招聘業務

韓国から食品関連バイヤーを本県に招聘し、個別商談、産地見学等を行うことにより、県産品への理解を深めてもらい商機の拡大を図った。

◆実施時期：平成30年7月18日（水）～20日（金）

◆視察先：県内5箇所

◆招聘者：韓国食品関係企業2社

ウ ビジネス開拓支援

拡大する日本食市場の新たなビジネスを開拓するため、北東北三県・北海道物産商談会に併せて、現地の消費者動向に関するセミナーを実施するとともに、視察・市場調査・起業訪問等を行い、県内企業の韓国ビジネス開拓の支援を行った。

⑦ 台湾人観光客誘致拡大事業（県委託事業）

青森県へのチャーター便及び国内定期便を利用して来県する台湾からの観光客の誘客促進を図るため、台湾旅行エージェントと連携して誘客宣伝事業等を実施した。

ア 台湾旅行エージェントへの広告助成金の交付、クーポン券の発行

（ア）立体観光商品

台湾発の航空券とJR EASTPASSセット購入割引キャンペーンを実施した台湾旅行会社に対し、販売促進に係る広告費用を助成した。

◆支援旅行社数 1社

◆支 援 先 創造旅行社

（イ）青森県内の特定店舗で利用できるクーポン券の発行

◆時 期 平成31年1月～3月

◆利用実績 7店舗 計25枚

イ 台湾における青森プロモーション

台湾からの誘客促進を図るため現地イベントへの参加やトップセールスにおいて本県の観光PRを行った。

（ア）観光イベント

㊦台北国際観光博覧会 TTE

◆時 期：平成30年5月4日（金）～7日（月）

◆場 所：台北市世界貿易センター



①台北国際旅行博 ITF

- ◆時 期：平成 30 年 11 月 23 日(金)～26 日(月)
- ◆場 所：台北市南港区南港展覽館

②日本東北遊樂日 2018 だいすき とうほく（東北感謝祭）

- ◆時 期：平成 30 年 12 月 14 日(金)～16 日(日)
- ◆場 所：台北市「華山 1914 文化創意産業園區」

(イ) トップセールスによるプロモーション

- ㊦平成 30 年 5 月 14 日(月)～19 日(土)
- ㊧平成 30 年 12 月 11 日(火)～17 日(月)

ウ 台湾からの MICE（企業研修・報奨旅行等）の歓迎対応

MICE 等で来県した旅行者に対し、出迎え対応や記念品の進呈などを実施し、本県の PR を行った（計 3 回）。

⑧ チャーター便誘致促進事業（県委託事業）

本県への国際チャーター便を利用して来県する台湾からの観光客の誘客促進を図るため、台湾旅行エージェントと連携して誘客宣伝事業等を実施した。

ア 県内空港に就航する台湾からのチャーター便を活用した旅行商品造成に対する広告支援チャーター便を利用し県内に 1 泊以上宿泊する旅行商品を販売・実施する台湾旅行エージェントに対し、販売促進に係る広告費用を助成した。

- ◆支 援 先：春季チャーター 延べ 12 社
- 秋季チャーター 延べ 10 社
- 定期チャーター 延べ 7 社

イ 台湾からのチャーター便お出迎え・お見送り

県及び県内観光事業者等と連携し、台湾からのチャーター便を利用した観光客に対して、歓迎及びお見送りを実施した。

- ◆実施回数：春チャーター便（4 月） 6 回
- 秋チャーター便（10 月～11 月） 14 回
- 定期チャーター便（11 月） 1 回
- 冬季チャーター便（1 月～2 月） 6 回
- ◆実施場所：青森空港



(4) その他観光振興事業

① 「もてなしの心」運動推進事業

本県を訪れた観光客を温かくもてなすため、県民及び観光事業者に対して「もてなしの心」の気運醸成を図った。

ア クリーン大作戦の実施

本県を訪れる多くの観光客を温かくもてなす県民運動の一環として、美しい自然環境を大切にし、後世に残していく意識を醸成するため、小さな親切運動青森県本部とともに「春のクリーン大作戦」を実施した。

- ◆時 期 平成 30 年 4 月 21 日 (土)
- ◆場 所 県内各地

イ 観光ボランティアガイド県大会の開催事業 (県補助事業)

観光ボランティアガイド県大会を開催し、ガイド研修や意見交換会などを通じ、ガイド団体相互の情報交流、ガイドのスキルアップを図った。

- ◆時 期 平成 30 年 10 月 13 日 (土)
- ◆場 所 弘前市 (ホテルニューキャッスル)
- ◆内 容

- 〈ガイド研修〉 観光ボランティアガイドの案内により、弘前市内で 3 コース のガイド研修
- 〈県大会〉 功労賞表彰、ガイド研修参加者から意見等発表、弘前観光コンベンション協会事務局長 坂本様による特別講演
- 〈交流会〉 ガイド相互間の交歓交流会

② 観光案内所連携強化事業

県内各観光案内所の円滑な業務運営と広域観光案内に対応するため、連絡会議を開催した。

- ◆時 期 平成 30 年 11 月 30 日 (金)
- ◆場 所 青森市 (青森県観光物産館アスパム)
- ◆内 容 観光案内業務に係る課題整理等

③ 観光人材育成等研修事業

地域の魅力を活かしたコンテンツづくりや情報発信力の向上、インバウンド対応力の強化など、本県の観光振興を担う人材の育成と活用を図るための研修事業を実施した。

- ◆第 1 回 平成 30 年 5 月 18 日
宿泊事業インバウンド対応魅力向上セミナー
- ◆第 2 回 平成 30 年 9 月 13 日
インバウンド危機管理セミナー

◆第3回 平成31年3月20日
観光マーケティングフォーラム

④ 観光功労者表彰事業

観光振興に向けた意識の高揚や受入体制の整備を図るため、本県の観光振興に顕著な功績が認められる者を表彰者として決定した。

ア 個人

- ・佐々木 清（三沢市観光協会会長）
- ・北村 晃（おいらせ町観光協会会長）

イ 団体

- ・巨大アップルパイ世界に挑戦する会（弘前市）

⑤ 観光振興事業（県補助事業）

（公社）日本観光振興協会が全国的または重点的に実施する全国広域観光振興事業に対し拠出した。

⑥ 広域観光振興事業

ア 北東北三県観光立県推進協議会の事業への参画

北東北三県観光立県推進協議会に参加し、北東北広域による国内観光の推進を図るとともに、外国人観光客の受入体制の整備、誘客促進及びPRに努めた。

イ 東北観光推進機構の事業への参画

東北観光推進機構の事業に参画し、広域観光の推進を図った。

ウ イルミネーション及びライトアップ機材の貸出し

県内市町村等にイルミネーション及びライトアップ機材の貸出しを行い、滞在型観光及び冬季観光の振興を図り誘客を促進した。

2 青森県観光物産館管理運営事業

青森県観光物産館アスパムが、県を代表する観光施設として、国内外の観光客に訪問、満足していただくため、観光連盟が主催するイベントについて、ターゲットやコンセプトを明確化するなど、全面的に見直し・再構築を行うとともに、アスパム自体の魅力向上策として、3月15日に日本最大級の360°3Dシアターとしてリニューアルオープンしたパノラマ映画や、ITを活用した新たなサービスの導入、テナント等との連携強化など、新たな顧客の掘り起こしや、来館者の満足度向上、リピーター確保に向けた取組を行った。

(1) 観光資源紹介事業

アスパム2階青い森ホールの映写設備機器をアナログ方式から最新のデジタル方式へと更新するとともに、本県ならではの自然、歴史、文化等の美しさ、素晴らしさを体感できる新たな映像を制作・上映し、本県の新たな魅力発見と県内周遊の広域化及び再来訪の「きっかけづくり」等、本県の魅力伝達の一層の促進を図った。

また、13階展望台では地上51メートルから、下北・津軽などの半島やむつ湾、八甲田山系、岩木山など、四季折々の360度の景観を俯瞰させ、コンシェルジュの説明等により、各種観光情報を紹介した。

また、季節ごとの館内装飾の実施季節感を表す装飾を館内に展示した。



(2) 主な主催イベント

① 2018アスパム春まつり

春まつりでは、アスパムの「新たな魅力」を伝えることを目的として、コンセプトを「新」とし、テナントと連携して、地場産品の新商品の紹介やねぶたをモチーフとした「ねぶた焼き」のデビューなど、コンセプトに沿った展開を行ったほか、青森明の星高等学校音楽部による演奏会やご当地グルメ屋台村、クラフト体験コーナー、お楽しみ抽選会などを実施した。

なお、例年4月下旬から5月上旬までの9日間程度開催していたが見直しにより5月のみとしたもの。

- ◆ 期 間 平成30年5月3日（木祝）～5月6日（日）4日間
- ◆ 来場者 4,082人



② あおもり肉`（にぐ）ふえす（新規）

昨年度まで開催していた「たまごかけご飯」イベントから一新し「あおもり肉`フェス」を開催した。ターゲットを「大人の休日倶楽部」で来青したお客様に設定し、青森県産食肉のPRや販売、青森県の肉文化等の紹介を行った。青森の馬文化の紹介では、パネル展示や、八幡馬をより知っていただくためワークショップ（製作体験）を行った。

「肉のつけ丼」については、県産米の青天の霹靂を使用し、10種類（牛、鶏、豚、馬等）の具材をのせ、お客様の様々な肉を楽しんでいただいた。

お楽しみ抽選会は、抽選で県産品が当たる抽選会を応募形式で実施した。

- ◆ 期 間 平成30年6月29日（金）～7月1日（日）3日間
- ◆ 来場者 7,500人



③ 2018アスパム夏まつり

青森県の地場産品を一堂に集めた大物産展（63業者出展）を開催したほか、昨年に引続きアスパム朝マルシェ等の企画や「アスパム・あおもりねぶたまつり写生コンクール」を開催した。また、アスパム館内での花火大会特別観覧を旅行商品として初めて販売し、105名の参加があった。

- ◆ 期 間 平成30年8月1日（水）～7日（火）7日間
- ◆ 来場者 44,294人



④アスパムお盆まつり（新規）

お盆の時期に帰省するお客様に対して県産品広く紹介するとともに、「涼」をテーマにご当地カップアイス40種類、地サイダー14種類、さらには昔懐かしいディップドッツアイスの販売など、アスパムの「新たな魅力」を伝え、アスパムへの集客や販売促進を図った。

◆期間 平成30年8月10日（金）～16日（木）7日間

◆来場者 3,500人



⑤アスパム秋まつり

「青天の霹靂」の新米を7種類の卵で楽しめる「たまごかけご飯」、3種類のカレーライスの提供や、14のクラフトブースも出店、青森県養鶏協会及び養豚協会によるパワーちゃんこ汁やたまごの廉価販売を実施。

◆期間 平成30年10月20日（土）～21日（日）

◆来場者 3,041人

※前年度は「うまい森青い森」との併催で実施



⑥2018青森県市町村まつり inアスパムあおもり「りんご大祭典」

「りんご」をメインテーマとして、県内市町村地場産品を紹介。旬のりんご14種類の即売会や購入したりんごをその場で生絞りジュース企画が好評だった。

◆期間 平成30年11月2日（金）～4日（日）3日間

◆来場者 16,673人



⑦ CHRISTMAS MARKET in アスパム（新規）

本県と親和性の高い食材利用によるメニュー提供など「青森ならではの」のクリスマス提案することにより、冬の中核イベントの実現による誘客効果を通じた域外交流・本県経済の活性化を目的に新規開催。10mのもみの木のクリスマスツリーやグッズ販売、ソーセージ等の販売のほか期間中、音楽イベントも開催し、高校生による吹奏楽フラッシュモブやドイツ人アコーディオン演奏など人気を博した。

◆期間 平成30年12月15日（土）～25日（火）11日間

◆協賛 17団体

◆メディア露出 7社（テレビ、新聞各社）

◆出展概要

- ・音楽ステージ 12団体
- ・ワークショップ 6団体
- ・屋外ヒュッテ 8棟
- ・屋内出展 11店

◆来場者 50,877人



⑨ アスパムお正月イベント

「初日の出を見よう!!」という企画で13階展望台の早朝営業を新規で開催。

そのほか館内お土産店を始めとした福袋企画の開催や津軽凧絵体験、樹氷のオブジェを展示した。

◆期間 平成31年1月1日（火・祝）～6日（日）6日間

◆来場者 2,127人



⑩アスパム冬まつり（パート1&パート2）

イベントを2週に分けて実施した。パート1では、あおり寒の味覚フェアと題し、中泊町と共同で開催。県内の地酒試飲販売や丼・鍋の販売を行った。

パート2では、クラフトなどが人気の「A-Line」を誘致し、冬のA-Lineと題し開催し好評を博した。

◆期間 平成31年1月26日（土）～27日（日）、2月2日（土）～3日（日）

◆来場 15,043人（2イベント合計）



（3）貸会議室事業

館内の会議室を本県の観光、物産、郷土芸能、産業、文化、食などの振興につながる地域おこし事業の活動の場、若年者の雇用促進のための職業相談や各種セミナー、教育旅行で来館する学校や教育旅行団体の体験学習の会場として貸出しし、本県観光及び産業の振興に寄与した。

（4）青森県地場セレクト運営事業

県内外からの来館者に対し、青森ならではのこだわりやストーリー性のある地場産品を紹介・宣伝し、販路拡大と産品PRを図るとともに、消費者の反応や改良点を生産者にフィードバックし、今後の商品開発に向けた情報提供を行った。

また、インバウンド向けの受入体制の強化として、多言語商品紹介アプリ「Payke」や中華圏向けスマートフォン決済アプリである「Alipay」「WeChatpay」を導入し、利便性の向上を図ったほか、日本人向けのスマートフォン決済システム「オリガミペイ」を導入した。

さらに、生産者の販路拡大と商品化へのアドバイスを行うため、中南地域県民局と連携し、生産者向けセミナーを実施した。

(5) テナント事業

本県の主要な施設であるエネルギー施策のPRのための展示・体験施設と雇用支援の情報提供施設としてのハローワーク関連施設やジョブカフェ等の事業活動の場を提供することにより、本県の産業振興と雇用促進を図った。

(6) PRホール運営事業（(公財)青森県市町村振興協会助成事業）

本県の観光と産業の振興を図るため、アスパム1・2階において、県内市町村の郷土芸能や祭り、地場産品や伝統芸能等を映像や展示・実演で紹介したほか、市町村の情報や文化資源・地場産品等の魅力をPRする市町村ホール等を運営した。また、本県を代表する伝統芸能である津軽三味線の無料演奏会や県立郷土館等との連携展を開催した。

〔収益事業〕

事業実施結果

観光連盟が実施する収益事業は、法人全体の収支を根底から支えるとともに、財務状況の改善の柱となるべきものであり、一層の拡大が求められている。

このため、貸会議室事業において、導入したインターネット予約システムの利便性向上のためのカスタマイズを行ったほか、駐車場管理等運営事業でも、月極駐車スペースの拡張、営業活動による増収、事前精算機の導入等により、収益の拡大を図った。

また、安定的な収入確保のためのテナントリーシングとして、市内の団体1社に事務所スペースの貸出しを行った。

1 イベントスペース・貸会議室事業

アスパム館内のイベントスペース及び会議室を各種会議や催事会場として貸出しした。なお、会議室については、導入したインターネット予約システムの利便性向上のためのカスタマイズを行ったほか精算・請求業務の効率化を図った。

2 テナント事業

青森県産にこだわった特色ある土産品店（5店舗）と飲食店（3店舗）において、青森県の物産と食の魅力を提供し次の連携事業を実施したほか、市内の団体1社に事務所スペースの貸出しを新たに行った。

■主な連携事業

① 中華圏向けスマートフォン決済システムの導入

中国人向けのスマートフォンのQRコード読み取りによる決済システムを館内4店舗で正式に導入した。

ア 導入店舗

アスパム物産、スイーツファクトリーパムパム、あおもり北彩館、青森県地場セレクト（連盟直営店）

イ 導入システム

（ア）アリペイ（中国のアリババグループが運営）

（イ）ウィチャットペイ（中国のテンセントが運営）

ウ 決済方法

バーコードにスマートフォンをかざして読み取り、その後、購入金額をスマートフォンに入力するだけで、アカウントに紐づけられた銀行口座からダイレクトに引き落としをする決済方法。



② 日本人向けスマートフォン決済システムの導入

日本人向けのスマートフォンのQRコード読み取りによる決済システム「オリガミペイ」をあおもり北彩館及び連盟直営店の青森県地場セレクトに導入した。

3 青森県観光物産館駐車場管理等運営事業

青森県観光物産館アスパム来館者等の利便性向上を図るため一般駐車場及び観光バス駐車場を管理・運営した。

また、駐車場収入増のため、月極駐車場のスペースを拡張し、近隣のホテル・企業への月極駐車場や大型バス駐車場の夜間一泊営業等を県内・県外関係団体等へPRした。

特に新規オープンした近隣ホテルの月極駐車及び1泊駐車契約や不動産会社との月極駐車場の委託契約を締結する等、駐車台数の増加対策を図った。

4 旅行業運営事業

あおもりグローバルラウンジで販売する商品として以下の商品を造成、販売している。今後、青森県観光連盟らしい体験プランの造成を進めていき、県内光振興に寄与していく。

◆タクシー周遊観光プラン(計 35 プラン)

一例：

- ・津軽の絶景スポット「立佞武多の館」「高山稲荷神社」「鶴の舞橋」を楽しむ旅
- ・青森の自然を満喫！乗馬体験プラン
- ・ライトアップ中野もみじ山と黒石 百年料亭「料亭 富士見館」での夕食プラン
- ・津軽鉄道「ストーブ列車乗車体験」と津軽の地吹雪体験プラン
- ・太宰治生誕 110 年記念コース（弘前・青森発着）芦野公園桜のトンネルと太宰ゆかりの地を巡る旅

◆体験プラン（手配旅行含む・計 4 プラン）

- ・青森ねぶた祭跳人体験プラン
- ・ねぶた御膳夕食プラン
- ・英語でご案内するねぶた小屋ツアー
- ・アスパム館内での簡易ねぶた衣装

平成 30 年度青森県観光物産館利用状況

単位：人・千円(税込)・%

区分	期間	28年度	29年度	30年度	増減	対前年比	対前々年比	備考
					30年度－ 29年度	30年度 /29年度	30年度 /28年度	
総利用者数 (人)	4～3月	1,113,760	1,029,672	1,192,028	162,356	115.8	107.0	インバウンド・国内旅行者共に、個人型旅行の増加傾向を背景に来館者が伸長。クリスマスマーケットを始めとした館内各イベントの見直し強化による集客力の向上がはかられた。
有料 入館者数 (人)	4～3月	52,296	49,430	52,740	3,310	106.7	100.8	一般的に各月共、前年横ばい傾向で推移したが、5月GW・8月夏まつり等の繁忙月が順調に伸びた。9月10市大祭典の開催もプラス材料となった。
観覧料収入 (千円)	4～3月	22,901	21,455	21,625	170	100.8	94.4	有料入館者数は伸びたが、観覧収入は10月以降、2階青い森ホール改装パノラマ映画上映中止により、展望台単独券の販売のみとなり、観覧券単価の低下が影響し前年度並となった。
物販・飲食店 総売上 ※直営店 含む (千円)	4～3月	848,062	805,277	857,781	52,504	106.5	101.1	館内利用者数拡大と連動して各店舗共に順調に推移した。特殊要因が生じた青森県地場セレクトを除いた物販部門・飲食部門は共に対前年比107%となった。
直営店 「青森県地場 セレクト」 売上 (千円)	4～3月	47,441	45,141	43,997	△ 1,144	97.5	92.7	前年実績のある7月仙台、1月東京ドームの出張販売の未実施が影響。夏まつり前に売場のレイアウト変更を行うと共に売り込みを強化したが、東京ドーム分をカバー出来なかった。
会議室収入 (千円)	4～3月	46,144	46,463	46,774	311	100.7	101.4	4月-8月は大小計2室の貸し出し休止となるも前年比100%を確保。9月-3月は小会議室2室を新設して前年比102%と堅実な伸びを示した。Webによる予約システム稼働で県外利用者が伸びている。
駐車場収入 ※月極等 含む (千円)	4～3月	46,094	48,306	53,273	4,967	110.3	115.6	入館者数の増加と連動して、一般駐車場の利用が拡大。月極駐車スペースの拡充による契約台数増及び大型バス等の料金体系の見直しも有効に機能した。